

平成25年度 全国学力・学習状況調査

(平成25年4月24日 実施)

高石市立小・中学校

調査結果概要

平成25年10月

高石市教育委員会

調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、個々の児童生徒の学力や学習状況調査を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査内容

- …教科に関する調査
 - 小学校：国語A・算数A（主として「知識」に関する問題）
国語B・算数B（主として「活用」に関する問題）
 - 中学校：国語A・数学A（主として「知識」に関する問題）
国語B・数学B（主として「活用」に関する問題）

…アンケート調査 児童生徒対象・学校対象

(3) 調査対象

小学校第6学年（高石市：7校 児童数：628人） 中学校第3学年（高石市：3校 生徒数：571人）

(4) 調査実施日

平成25年4月24日（火）

(5) 調査結果の取扱いについて

平成25年度調査は、全校調査で行われた。
本調査は、競争を目的とするものではなく、すべての子どもたちの学力や学習状況を把握し分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としている。
本調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものである。

平成25年度 本市の校種・教科・区分別正答率

| 小学校 | | 平均正答率 | | |
|-----|-----|-------|---------|--------|
| | | 高石市 | 大阪府(公立) | 全国(公立) |
| 国語 | A区分 | 60.9 | 61.2 | 62.7 |
| | B区分 | 45.8 | 47.9 | 49.4 |
| 算数 | A区分 | 75.7 | 77.1 | 77.2 |
| | B区分 | 55.4 | 57.3 | 58.4 |

| 中学校 | | 平均正答率 | | |
|-----|-----|-------|---------|--------|
| | | 高石市 | 大阪府(公立) | 全国(公立) |
| 国語 | A区分 | 74.3 | 73.3 | 76.4 |
| | B区分 | 63.6 | 63.0 | 67.4 |
| 数学 | A区分 | 63.4 | 61.7 | 63.7 |
| | B区分 | 41.6 | 38.8 | 41.5 |

上表の本市平均正答率の数値データは、市内の全小学校・全中学校のデータに基づいて表しています。

平均正答率からわかる本市小・中学校別結果の概要について

小学校においては、国語・算数のA区分（主として「知識」に関する問題）・B区分（主として「活用」に関する問題）ともに、全国平均・大阪府平均を下回る結果です。
中学校においては、国語・数学のA区分（主として「知識」に関する問題）・B区分（主として「活用」に関する問題）ともに、数学B以外は全国平均を下回る結果ですが、大阪府平均は全て上回っています。

各教科に関する調査結果（高石市）の概要 【小学校】

小学校国語

結果から見えてくる課題

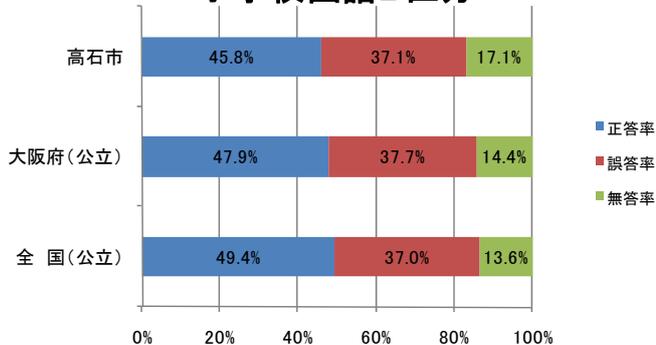
小学校国語A区分



A区分問題（主として「知識」に関すること）

全国の平均正答率が62.7%であるのに対し、高石市は60.9%であり、1.8ポイント下回った。
 大阪の平均正答率が61.2%であるのに対し、高石市は60.9%であり、0.3ポイント下回った。
 無答率においては、全国の状況より1.3ポイント高くなっている。

小学校国語B区分



B区分問題（主として「活用」に関すること）

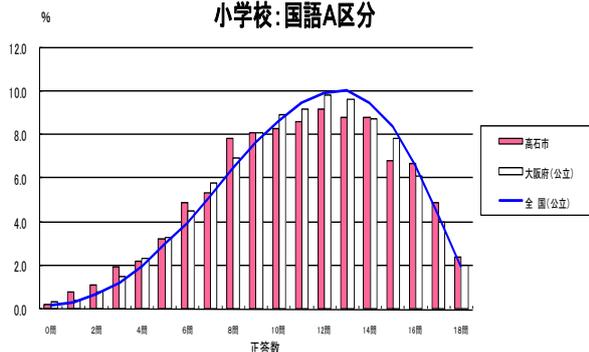
全国の平均正答率が49.4%であるのに対し、高石市は45.8%であり、3.6ポイント下回った。
 大阪の平均正答率が47.9%であるのに対し、高石市は45.8%であり、2.1ポイント下回った。
 無答率においては、全国の状況より3.5ポイント高くなっている。

正答数の分布については、下のグラフ《緑色枠》より、A区分（主として「知識」に関する問題）B区分（主として「活用」に関する問題）ともに、全国に比べて分布の山が左寄りになっており、全体的に課題があることがわかります。

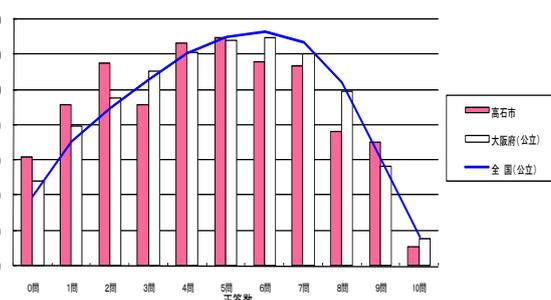
領域別にみると、次ページのグラフ《黄色枠》より、A区分・B区分の正答率を全国と比較すると、A区分の「短答式」の問題では、全国を上回りますが、その他の項目で全国を下回る結果になっていることがわかります。

グラフ：正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ

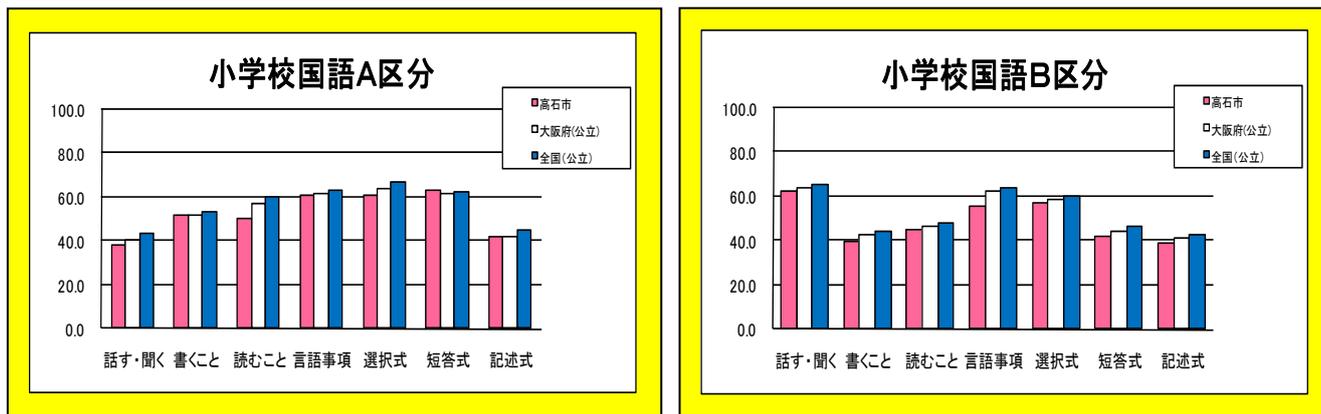
小学校：国語A区分



小学校：国語B区分



グラフ：領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略表記しています。

A 区分に見られる課題等について

A 区分(主として「知識」に関する問題)において、正答数の分布では全18設問中17、18問正答した人の割合が、全国よりも多くなっています。一方で0～9問正答した人の割合も、全国よりも多くなっており、基礎・基本の定着に差がみられます。定着に係る取組みを充実する必要があります。

領域別にみると、すべての領域について、全国より低い正答率になっていますが、問題形式では、「短答式」では、全国よりも正答率が高くなっています。

特に、「話すこと」、「読むこと」の中で、「目的に応じて、適切な言葉づかいで話すこと」や「特徴や情景を読み取ること」などの問題の正答率が低くなっています。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国よりも低くなっています。

基礎的な漢字の読み書きを問う問題では、比較的高い正答率を維持しています。しかし、「文章の一部を抜き出して、文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分ける」問題や「広告を見ながら、内容にふさわしい文章を選び出す」問題では、全国よりも正答率が低く、課題があります。

無答率については、全国よりも数値は高くなっています。

B 区分に見られる課題等について

B 区分(主として「活用」に関する問題)において、正答数の分布では全10設問中0～2問正答した人の割合が、全国よりも多くなっており、活用力に差がみられます。

領域別でも、すべての領域、問題形式について、全国より低い正答率になっています。

特に「書くこと」、「言語事項」の中で、「目的や意図に応じて内容を書き加えること」や「自分の考えを具体的に書くこと」などの問題の正答率が低くなっています。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国よりも低くなっています。

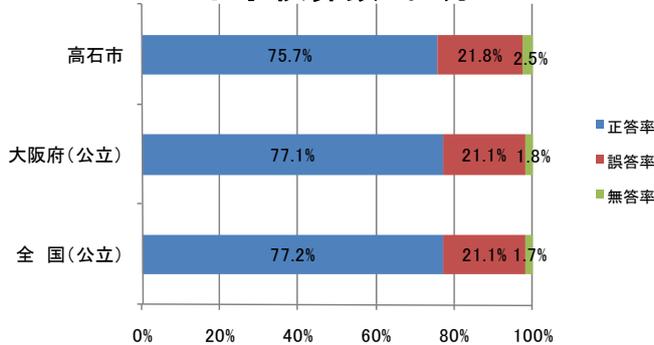
文を読み取り、相手の立場や状況を感じ取って適切なものを選択する問題では、全国より高い正答率になっています。しかし、「目的や意図に応じて必要な内容を適切に引用すること」、「複数の内容を関係づけながら自分の考えを具体的に書くこと」に課題がみられます。

無答率については、全国よりも数値は高くなっています。

小学校算数

結果から見えてくる課題

小学校算数A区分

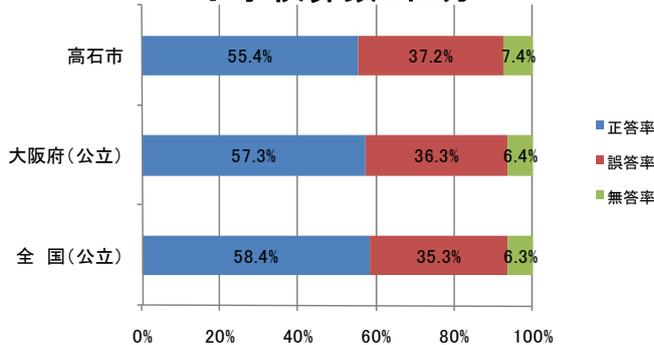


A区分問題（主として「知識」に関すること）

全国の平均正答率が77.2%であるのに対し、高石市は75.7%であり、1.5ポイント下回った。
大阪の平均正答率が77.1%であるのに対し、高石市は75.7%であり、1.4ポイント下回った。

無答率においても全国の場合より0.8ポイント高くなっている。

小学校算数B区分



B区分問題（主として「活用」に関すること）

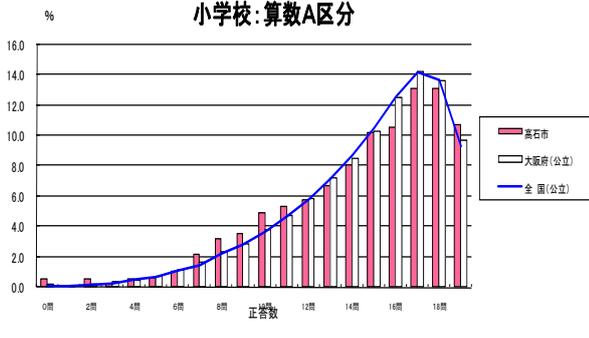
全国の平均正答率が58.4%であるのに対し、高石市は55.4%であり、3ポイント下回った。
大阪の平均正答率が57.3%であるのに対し、高石市は55.4%であり、1.9ポイント下回った。

無答率においては全国の場合より1.1ポイント高くなっている。

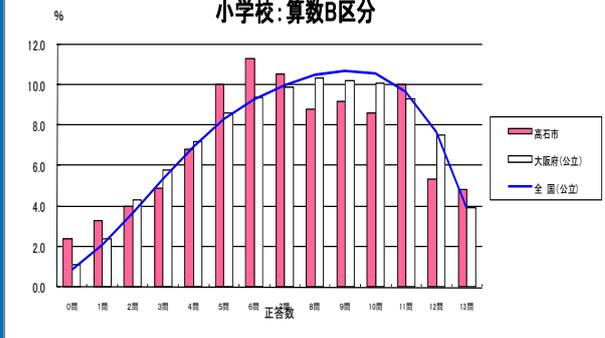
正答数の分布については、下のグラフ《青色枠》より、A区分（主として「知識」に関する問題）は、概ね全国と同じ傾向であることがわかります。一方、B区分（主として「活用」に関する問題）は、全国に比べて分布の山の頂点が左寄りになっており、課題がみられます。
領域別にみると、次のページのグラフ《桃色枠》より、A区分は、概ね全国と同じ傾向であることがわかります。一方B区分では、「数と式」の領域や「記述式」の問題で正答率が低くなっています。

グラフ：正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ

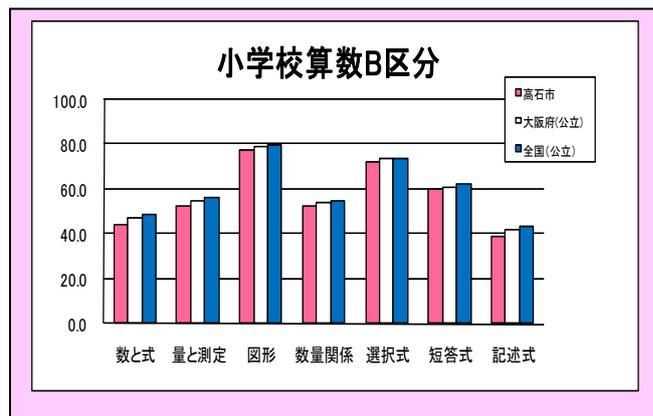
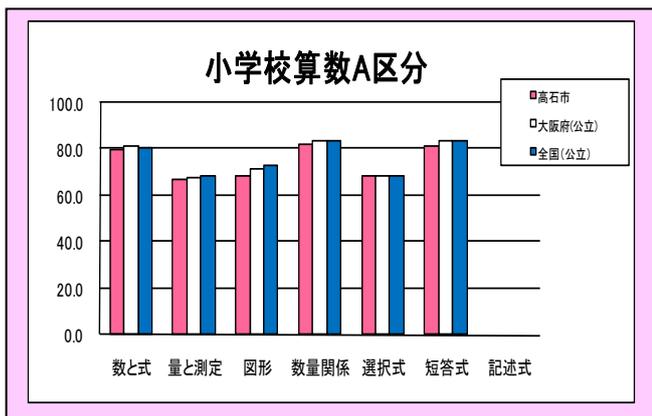
小学校：算数A区分



小学校：算数B区分



グラフ：領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



A 区分に見られる課題等について

A 区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では全 19 設問中 0～2 問、7～11 問、19 問正答した人の割合が全国よりも多くなっており、基礎・基本の定着に差がみられます。基礎・基本の定着に係る取組みを充実する必要があります。

領域別にみると、すべての領域、全国より低い正答率になっています。しかし、「選択式」の問題形式の正答率では、全国とほぼ同じ値になっています。

特に「図形」領域の中で、平面図形や立体図形の基礎的な知識を問う問題で課題がみられます。設問別にみると、各設問の正答率は、全国よりも若干低い傾向がみられます。

「小数のかけ算」「概数の処理」「分数の足し算」などの計算問題の正答率は、全国より高く、改善がみられます。しかし、「単位当たり量の求め方」「台形の面積」や「合同な図形の見つけ方」「円柱のたてと横の長さの求め方」を問う問題で課題がみられ、必要な数値を取りだし、答えを導き出す力が必要になります。

無答率については、全国よりも数値は高くなっています。

B 区分に見られる課題等について

B 区分（主として「活用」に関する問題）において、正答数の分布では全 13 設問中 11・13 問正答した人の割合が全国よりも多くなっています。しかし、13 設問中 0～2 問、4～7 問正答した人の割合も全国よりも多くなっていることから、学力の二分化が進んでいることがわかります。領域別にみると、すべての領域、問題形式について、全国より低い正答率になっています。

特に、「数と式」「量と測定」の中で、「整数の性質について理解を深めること」「異種の 2 つの量を割合としてとらえて比べたり、表したりすること」に課題がみられます。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国よりも低い傾向がみられます。

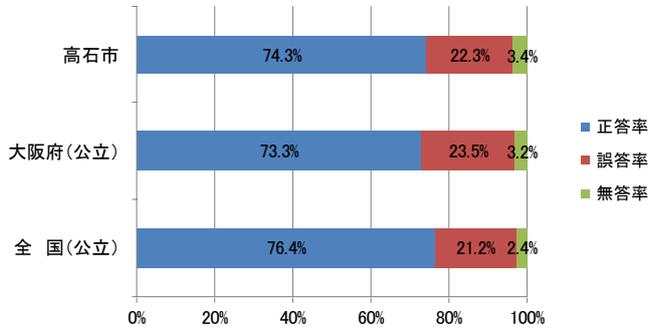
特に「示された実験結果をもとに、比例関係でないことを記述する」「示された分け方をもとに、2 つの三角形の面積が等しいことを記述する」ことを問う問題に課題があり、与えられた情報をもとに自分の考えを記述できるという「活用力」さらに「書く力」を伸ばす取組みが求められます。

無答率については、全国よりも数値は高くなっています。

中学校国語

結果から見えてくる課題

中学校国語A区分



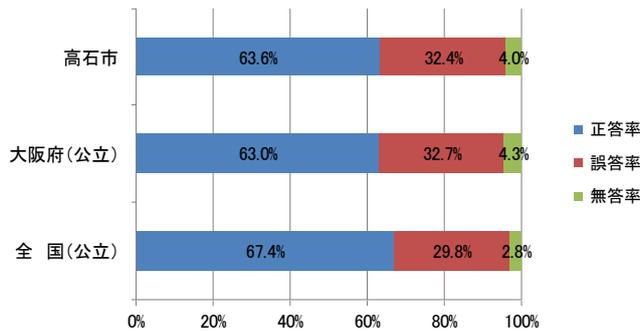
A 区分問題(主として「知識」に関すること)

全国の平均正答率が 76.4% であるのに対し、高石市は 74.3% であり、2.1 ポイント下回った。

大阪府の平均正答率は 73.3% であり、1.0 ポイント上回った。

無答率においては全国の状況より 1.0 ポイント高くなっている。

中学校国語B区分



B 区分問題(主として「活用」に関すること)

全国の平均正答率が 67.4% であるのに対し、高石市は 63.6% であり、3.8 ポイント下回った。

大阪府の平均正答率は 63.0% であり、0.6 ポイント上回った。

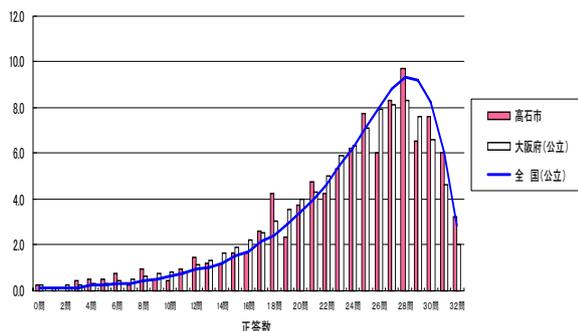
無答率においては全国の状況より 1.2 ポイント高くなっている。

正答数の分布については、下のグラフ《緑色枠》より、A 区分(主として「知識」に関する問題)では概ね全国と同じ傾向であることがわかります。B 区分(主として「活用」に関する問題)の正答数の分布は、全国に比べて分布の山の頂点が低く全体的に左寄りになっており、課題がみられます。

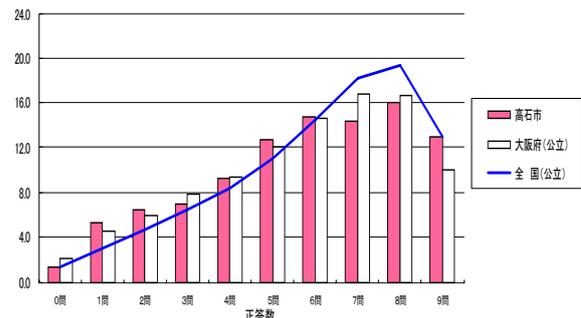
次ページのグラフ《黄色枠》より、ほとんどの領域・問題形式で全国と比較して平均正答率が若干低くなっていることがわかります。特に A 区分については、「話すこと・聞くこと」の領域で、B 区分では、「書くこと」の領域、「記述式」の問題で特に低い結果となっていることがわかります。

グラフ : 正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ

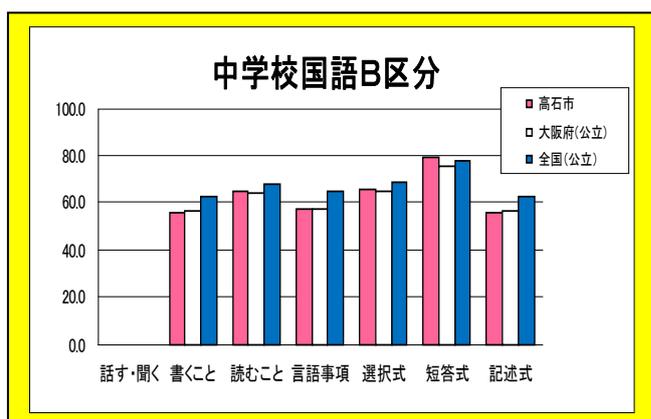
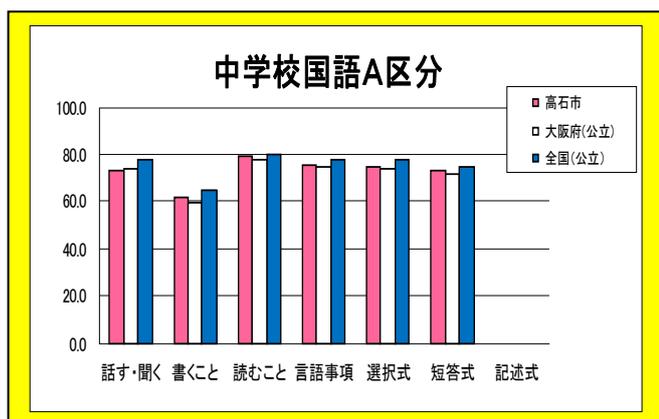
中学校:国語A区分



中学校:国語B区分



グラフ：領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略表記しています。

A 区分に見られる課題等について

A 区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では全32設問中31・32問正答した人の割合が全国よりも多くなっています。一方で3～6問正解した人の割合も多く、基礎・基本の内容の定着に差がみられます。定着に係る取組みを充実する必要があります。領域別にみると全ての領域、問題形式について、全国よりも若干低い正答率になっています。特に「言語事項」の中で、「基本的な語句でありながら、日頃聞きなれていない、または聞くことが少なくなった言葉の読み・書き」などの問題の正答率が低くなっています。

設問別に見ると、各設問の正答率は、全国と同様の傾向がみられますが、特定の設問で、全国よりも低くなっています。

文章から「目的に応じて必要な情報を読み取ること」、「条件に合わせて書くこと」に課題があります。

無答率については、全国よりも数値は高くなっています。

B 区分に見られる課題等について

B 区分（主として「活用」に関する問題）において、正答数の分布では全9設問中9問正解した人の割合が全国とほぼ同じ値になりましたが、7・8問正解した人の割合が少なく、対して0～3問正答した人の割合が多くなっており、取組みの推進を図る必要があります。

領域別に見ると、全ての領域、記述式の問題について、全国よりも低い正答率になっています。「短答式」の問題では、正答率が全国を上回りました。しかし、「記述式」の問題では特に無答率が高い傾向になります。これからも課題に沿った「書くこと」の活動を意識した指導について取組みの充実に努める必要があります。

設問別に見ると、各設問の正答率は、全国と同様の傾向がみられますが、全国平均よりも全体的に低い結果になっており、課題があります。

特に「書かれている内容」からいくつかの条件に合わせて、「自分で判断し」、「具体的な解答を考えて書く」活動や「文章の内容について、根拠を明確にして自分の考えを書く」活動について、大きな課題があります。

無答率については、全国よりも数値は高くなっています。

中学校数学

結果から見えてくる課題

中学校数学A区分



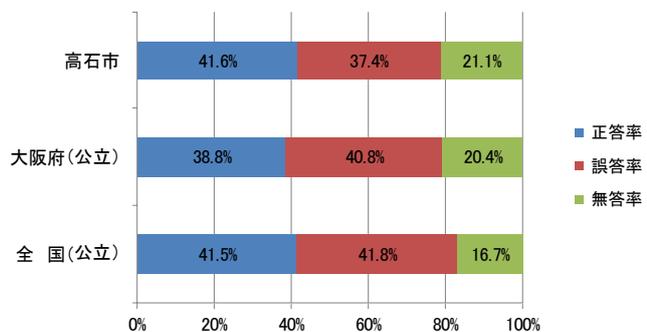
A 区分問題(主として「知識」に関すること)

全国平均正答率が61.9%であるのに対し、高石市は61.7%であり、0.2ポイント下回った。

大阪府平均正答率は59.9%であり、1.8ポイント上回った。

無答率においては全国平均より1.3ポイント高くなっている。

中学校数学B区分



B 区分問題(主として「活用」に関すること)

全国平均正答率が41.5%であるのに対し、高石市は41.6%であり、0.1ポイント上回った。

大阪府平均正答率は38.8%であり、2.8ポイント上回った。

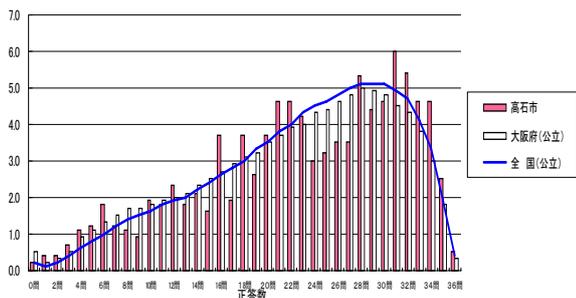
無答率においては全国平均より4.4ポイント高くなっている。

正答率の分布については、下のグラフ《青色枠》より、A区分(主として「知識」に関する問題)・B区分(主として「活用」に関する問題)ともに、真ん中の分布層にへこみが見られる等、少しばらつきがみられるものの、概ね全国と同じ傾向であることがわかります。

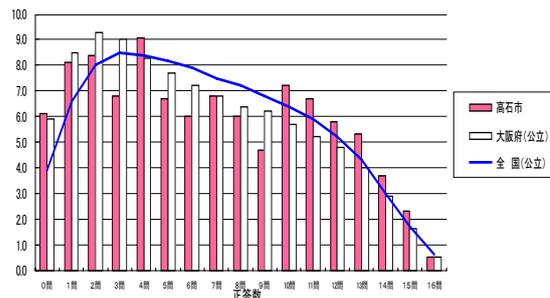
領域別にみると、次ページのグラフ《桃色枠》より、特にA区分については、「数と式」「資料の活用」の領域、「短答式」の問題で、B区分では、「関数」の領域、「記述式」の問題で全国より若干低い結果となっていることがわかります。

グラフ : 正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ

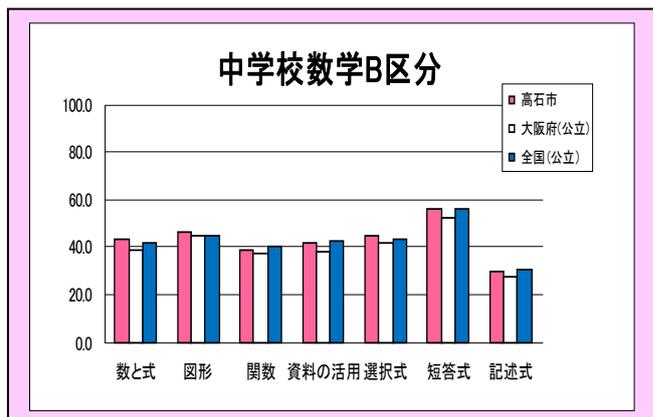
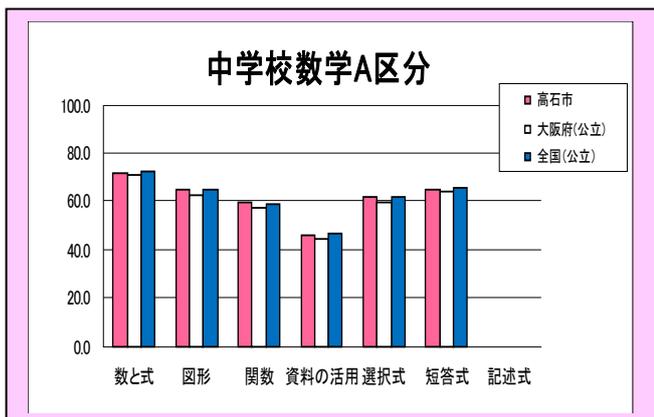
中学校:数学A区分



中学校:数学B区分



グラフ：領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



A 区分に見られる課題等について

A 区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では全 36 設問中 31 ~ 36 問正答した人の割合が全国よりも多くなっています。一方で、1 ~ 6 問正答した人の割合も多くなっており、よく理解できている子どもと、理解が不十分な子どもの二分化の傾向があることがわかります。

領域別にみると、全ての領域、問題形式の正答率が、全国と同様の結果になりました。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国と同様の傾向がみられます。

今回のテストでは、全国的に文字と関数の考え方をを使って 2 つの量の関係性を考える問題に課題がありました。本市の課題としても同様の傾向がみられます、

根拠を明らかにする活動を通して、意味理解を深める学習に取り組む必要があります。

無答率については、全国よりも数値は高くなっています。

B 区分に見られる課題等について

B 区分（主として「活用」に関する問題）では、正答数の分布で全 16 設問中 10 ~ 15 問正答した人の割合が全国よりも多くなっています。一方で、0 ~ 3 問正答した人の割合も、全国よりも多くなっており、A 区分と同じ二分化の傾向がみられます。

領域別にみると、全ての領域、問題形式の正答率が、全国と同様の結果になりました。

設問別にみると、各設問の正答率は、全国と同様の傾向がみられます。

「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄が成り立つ理由を説明すること」に課題があります。解答の中で「説明すべき事柄」と「その根拠」の両方を示して説明する力が弱いと考えられます。今後も、考え方の筋道を立てて答えを導き出す経験をさらに積み重ねていく必要があります。

無答率については、全国よりも数値は高くなっています。

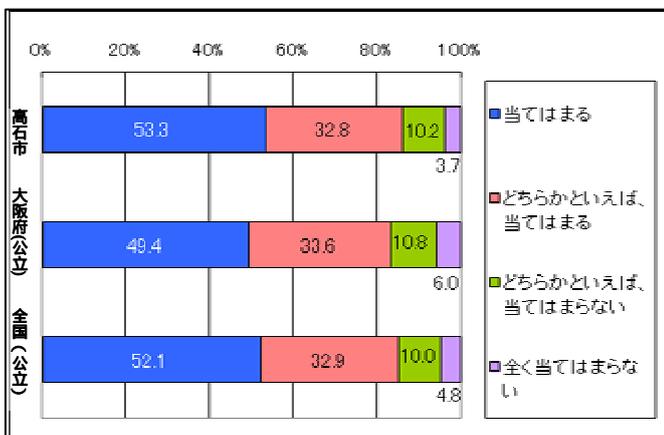
児童・生徒アンケートからわかる4つの傾向

傾向1: 学校へ行くことに対して前向きにとらえ、楽しんで学校生活を送っている傾向が見られる。

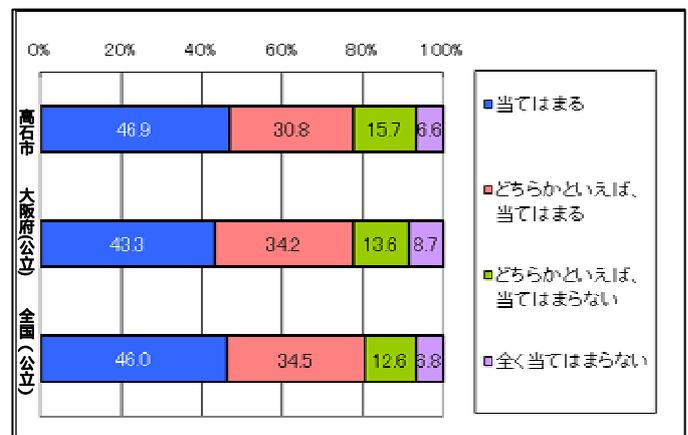
〔グラフ1〕及び〔グラフ2〕ともに、良好な回答の割合は小・中学校双方において大阪府よりも高く、全国と比較しても同等か上回る結果となっています。高石市の子どもたちは学校生活を楽しみ、友達とも関係が良いと考えることができます。前向きに学校生活を送り、義務教育の9年間において、良い出会いや仲間作りができているものと思われます。

〔グラフ1〕 学校に行くのは楽しいと思いますか

小学校

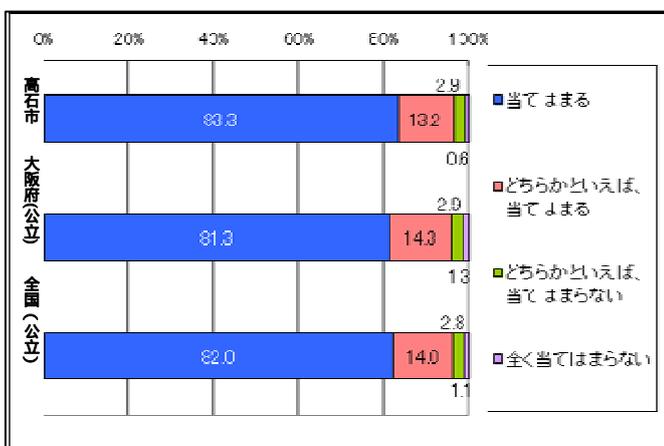


中学校

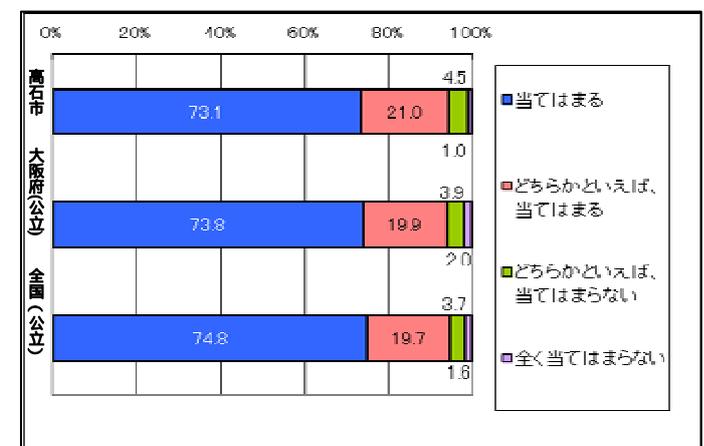


〔グラフ2〕 学校で友達に会うのは楽しいと思いますか

小学校



中学校



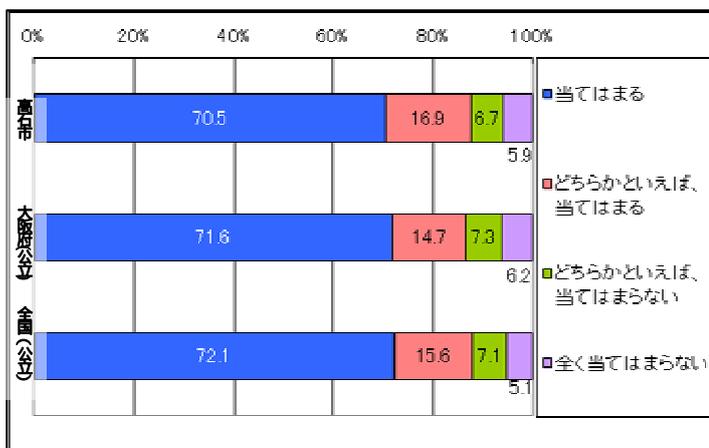
傾向2: キャリア教育等の実施により、自分の将来について、前向きにとらえている傾向が見られる。

〔グラフ3〕より、将来への夢や希望を持っている生徒が、中学校においては、大阪府だけでなく全国よりも多くなっています。また、小学校においても、前年度より、良好な回答の割合が増えており、小中連携を通じたキャリア教育の取組みが、進んできていると考えられます。

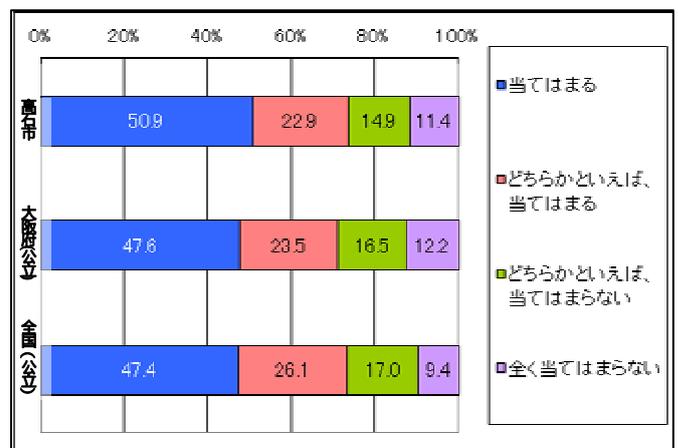
〔グラフ4〕より、小学校・中学校ともに大阪府だけでなく全国よりも上回り、人の役に立ちたいという思いをもつ子どもが多くなっていると考えられます。

〔グラフ3〕 将来の夢や目標を持っていますか

小学校

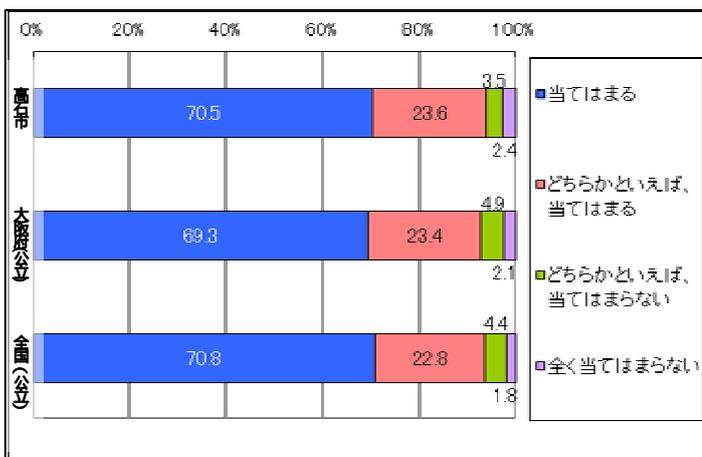


中学校

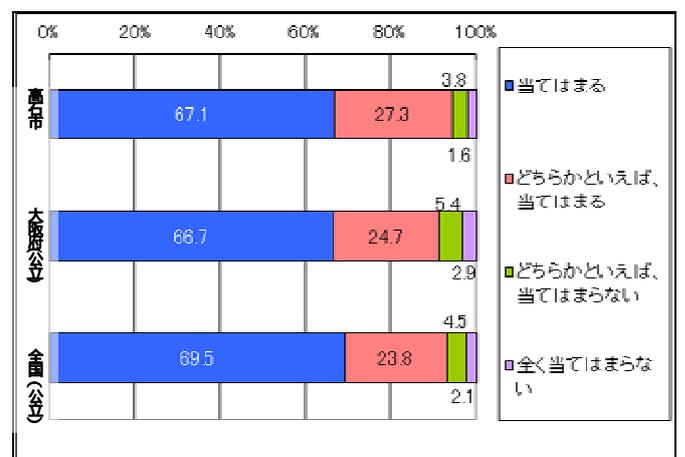


〔グラフ4〕 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

小学校



中学校



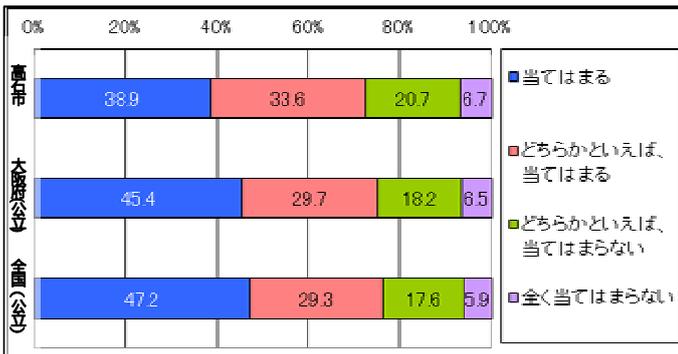
傾向3:日常生活において、家族と接する機会が少ないものの、宿題等に対してまじめに取り組むことができる。

〔グラフ5〕及び〔グラフ6〕では、さまざまな事情により、家庭において子どもと接する時間が短くなってしまっている傾向があります。

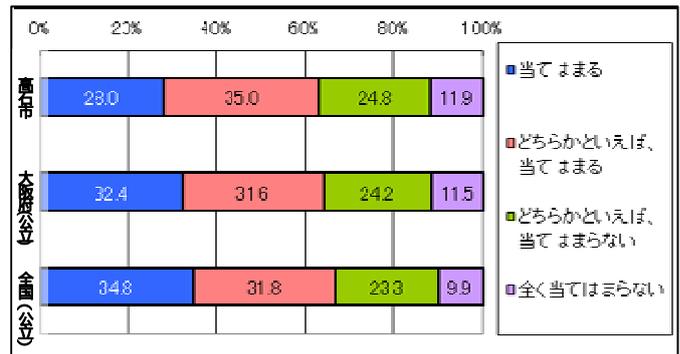
しかし、〔グラフ7〕にあるように、小学校では、子どもたちの、まじめに宿題に取り組む姿勢が前年度の調査に引き続き良好な結果を示しております。中学校では、全国の結果より下回るものの、前年度と比べて良好な結果になっています。これは、家庭における学校教育への支援がしっかりしていることがわかり、本市の子どもたちの学力にも良い影響をもたらす要因の一つと考えられます。

〔グラフ5〕 家の人と学校での出来事について話をしていますか

小学校

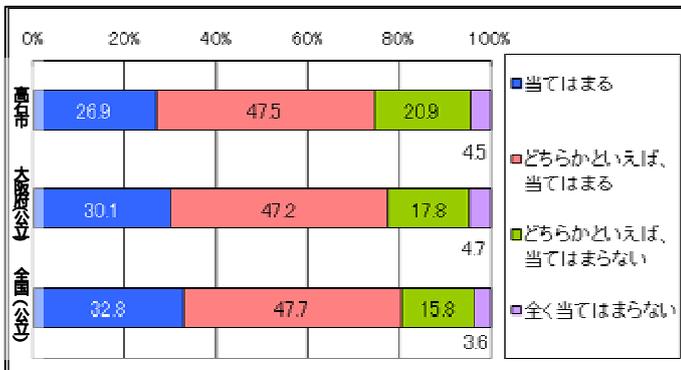


中学校

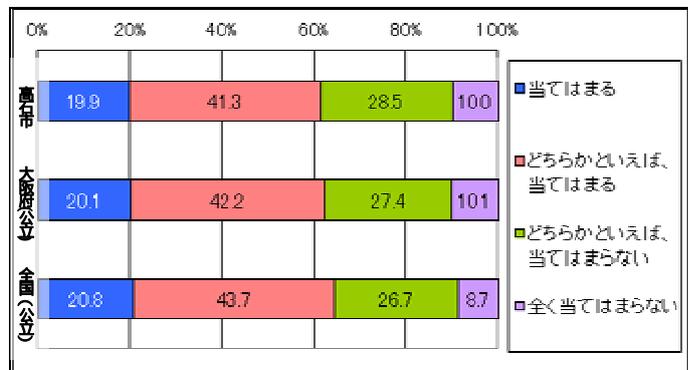


〔グラフ6〕 家の手伝いをしていますか

小学校

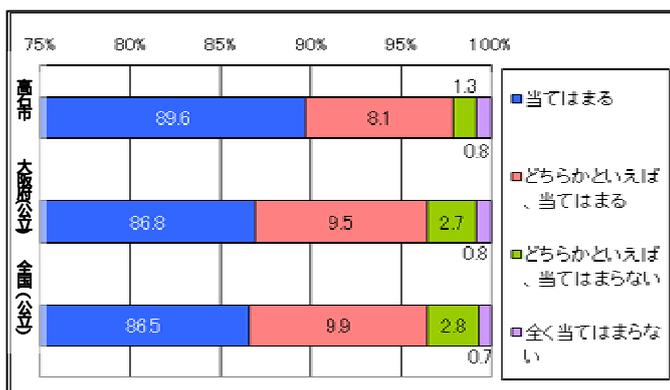


中学校

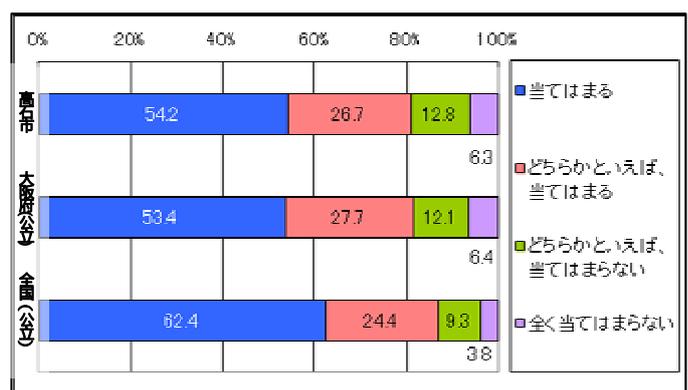


〔グラフ7〕 家で、学校の宿題をしていますか

小学校



中学校

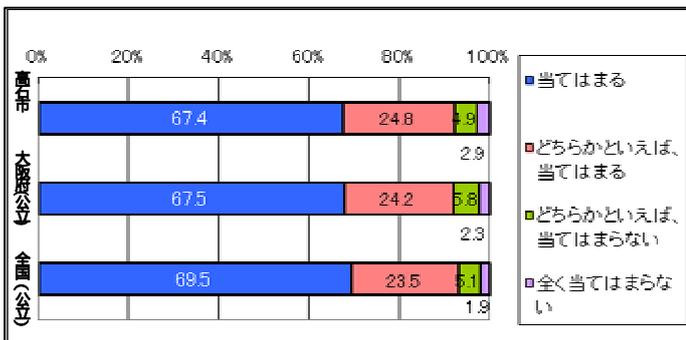


傾向4・他者を認め、自分を大切にする気持ちを育むことにより、「いじめ」に対する毅然とした態度を形成する必要がある。

〔グラフ8〕から、他者を思いやる気持ちが本市の子どもたちには多くあることがわかりますが、〔グラフ9〕では、「自己肯定感」が小学校から中学校にかけて減少しています。これは、自分を大切にする、あるいは自分ガ何かを成し遂げ、尊いものであるという体験が、年齢が進むことにより減少しているのではないかと考えられます。〔グラフ10〕に見られるように、他者を思いやる気持ちは多いものの、「いじめ」に対して「絶対にだめだ!」と言い切ることができる子どもが全国や大阪府と比べて、小学校から中学校にかけて少なくなっています。そのことから、他者も自分も、ともに大切にして、その結果として、「思いやり」だけではなく、その気持ちを行動にあらわすことができる子どもを育む必要があると考えられます。

〔グラフ8〕 人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか

小学校

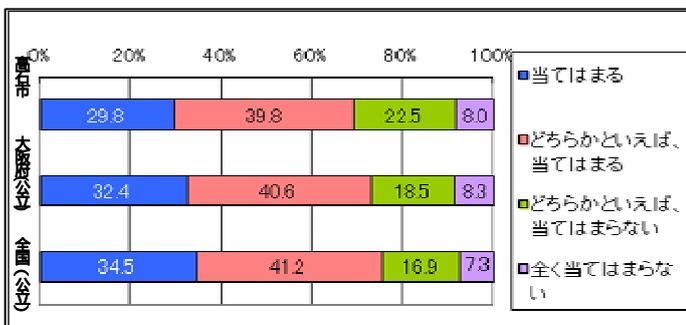


中学校

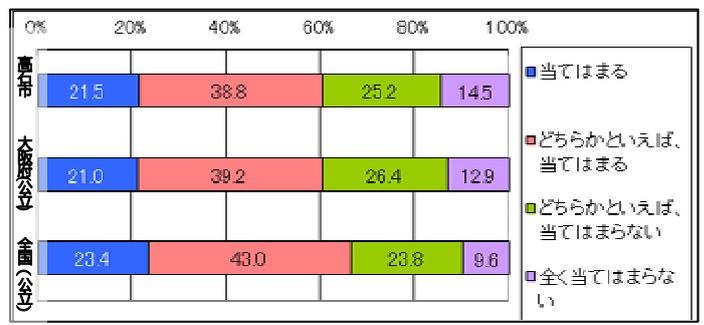


〔グラフ9〕 自分にはよいところがあると思いますか

小学校



中学校

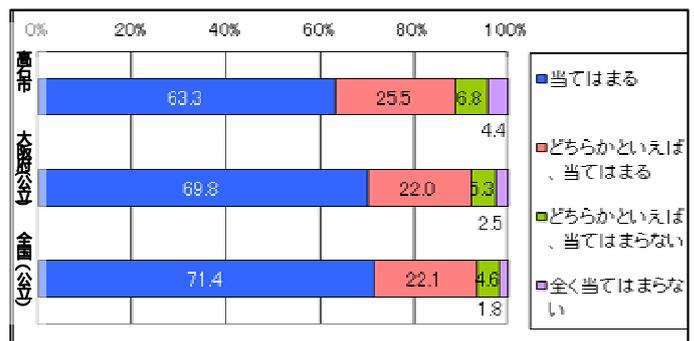


〔グラフ10〕 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか

小学校



中学校



調査結果から

本年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析・考察した結果は、

「主として「書くこと」に関する内容」についての学習内容の定着

「家庭で宿題をしない割合」が減少

という点については、前回までの調査と比較して、一定の改善がみられることがわかりました。

その一方で、「目的や意図に応じて必要な内容を選び出すこと」

「考え方の筋道を立てて答えを導き出すこと」

という点においては、引き続き課題であることがわかりました。

これらへの対応策として、

- ・発表やグループ討議を取り入れた授業を増やすこと
- ・明確に示されたねらいのもと新たな知識を「習得する学習」と、自ら課題を発見しそれを追求していく「探求する学習」の両方をバランスよく取組める学習計画を立てること

を授業改善における目標として、今後も継続的に

- ・「説明すべき事柄とその根拠の両方を示して説明する」活動
- ・「学習内容と日常生活の事象を結びつけて考える」活動

を大切にした取組みを進めていくことに努めていきます。

また、昨年、児童・生徒アンケートからみえた課題として挙げました「家庭での学習習慣の定着」については一定の改善がみられることがわかりました。これは、学校と家庭が協力して、子どもたちの自学自習力を向上させる取組みが結びついた結果です。その一方で、「学校や家庭での読書時間の短さ」については、課題が残っていることがわかりました。

これについても、学校でも改善に努めていくことを考えていますが、是非ご家庭でも読書に親しむ機会を持っていただく等、ご協力をいただければと考えております。また、地域の方々につきましても学校における図書館ボランティアに参加していただく等、学校の読書活動推進にご協力とご支援をお願いいたします。

このような課題解決を行う方策としまして、各小・中学校においては学力向上大作戦と銘打って、各学校の学力改善策を検討し、それに基づいた学力向上のための取組みを行っていきます。引き続き、家庭学習に協力していただきたく、次ページには、家庭学習を行う際に参考にしていただける資料及びワークシートを掲載させていただいております。16ページには各学校・高石市教育委員会の取組みと、地域・家庭の皆様にご協力いただきたい点を記載してあります。今後とも高石市の教育にご理解、ご助力をいただきますようお願いいたしますとともに、地域・家庭の皆様と連携して高石市の子どもたちをよりよい方向にはぐくんでいきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

高石市教育委員会及び学校の取組み

☆教育委員会が中心となって取組んでいること

- ◆外国語教育を推進することにより、子どもたちのコミュニケーション力の素地を育むとともに、算数や国語等其他教科での言語活用の力を高めます。
- ◆各学校が立てた「学力向上大作戦」(P15参照)に基づいて課題に正対した授業改善・学力向上に対する取組みを支援していきます。
- ◆小さい頃からのキャリア教育やスポーツ選手を招いて行う「夢先生」による夢の教室の実施等の体験活動を重視することにより、知識を実践に結びつける力や自分の将来について考えることができる素地を育成します。
- ◆各小・中学校では、各校工夫を凝らした学力向上のための施策を実施しています。さらに、その輪を中学校区に拡大し、合同の研修会や学力担当者会議等を開催することにより、情報交換と共有を行い、小中連携による学力向上のための取組みにつなげています。また、大学等から外部の方々を講師として迎え、専門的な視点から助言をいただいています。
- ◆市の教育課題に応じた研修を積極的に行い、教職員の資質・指導力向上を図っています。
- ◆3つの朝運動(朝食・あいさつ・朝読書)の取組みを継続しています。
- ◆放課後や、長期休業期間に実施する補充学習へのボランティアを募集し、学校での学習のサポート活動を進めています。
- ◆大阪府教育委員会と連携し、各学校での授業研究を中心とする校内研修の活性化を図り、授業改善に取り組んでいます。

☆各学校が現在取組んでいること

(下記の内容は必ずしも全学校で取組んでいるのではなく、各小中学校が実態に応じて取組んでいます。)

- ◆学習におけるつまずきの把握と補充指導の充実
 - ・放課後学習の実施
 - ・長期休業期間中の学習会の実施
 - ・「家庭学習の手引き」の作成、配布
 - ・効果的な宿題の取組み
- ◆指導内容・指導方法の工夫の推進
 - ・調査から見える成果と課題を踏まえ、「学力向上大作戦」を作成、授業改善及び学力向上に対する取組みの改善。
 - ・習熟度別授業を取り入れた、少人数指導や複数教員による指導等、きめ細かな指導の充実
 - ・基礎・基本の徹底と繰り返し学習の実施
 - ・実験・観察などの活用場面を取り入れた授業研究
 - ・児童・生徒のコミュニケーション能力を高めるため音読・話し合い・発表など子どもたちが授業の中で聞いたり、話したりする学びあいのある授業展開の工夫
 - ・児童・生徒が不得意とする記述式の問題等への対応のための指導工夫
- ◆読書活動の一層の推進と充実
- ◆学習規律の徹底を図り、より一層の「落ち着いた授業」への取組み
- ◆あいさつ運動など基本的な生活習慣の向上のための取組み
- ◆一人ひとりが尊重される集団づくりの実現
 - ・人権教育及び道徳教育のさらなる推進

※各学校における「学力向上大作戦」については、後日高石市のHPIに掲載いたします。

地域・家庭に協力いただきたいこと

- ◆「他人を認め、自分を大切する」こと(自己有用感)の大切さをご家庭でもお話していただきますようお願いいたします。
- ◆携帯電話・スマートフォンやゲーム機の使用など、家庭におけるルール作りと、そのルールの尊重について、子どもたちと話し合っていたきたいと思えます。
- ◆各校における「家庭学習の手引き」等を参考にいただき、子どもたちの宿題の確認や、学校の予習・復習等の自主的な家庭学習に対する意欲向上のご協力をお願いします。
- ◆ご家庭における読書の機会向上や子どもたちへの啓発についてご協力をお願いします。
- ◆学校のさまざまな学力向上等の取組み(授業支援や図書、放課後学習活動等のボランティア等)についてご協力をお願いします。
- ◆PTA活動へのご参加とご協力をお願いします。
- ◆各中学校区の「すこやかネット」の活動へのご参加とご協力をお願いします。
- ◆学校と共に3つの朝運動(朝食・あいさつ・朝読書)など、基本的な生活習慣の向上のための取組みへのご協力をお願いします。

小学校国語

【編集会議での町田さんと山下さんの意見】



町田さん 「④まとめ」には、題名「打ち上げ花火の伝統」に合う内容を書いたほうがいいと思うわ。書き出しの文（「打ち上げ花火は、…伝統といえます。」）は、「歴史」に注目し、「① 打ち上げ花火の歴史」の内容をまとめているわね。

それに続く内容は、「現在」の打ち上げ花火に注目し、「② 打ち上げ花火の種類」と「③ 花火師の小野さんの声」の「① つくり出しの伝統」の中に書かれている。現在における打ち上げ花火の形や色、打ち上げるときのかふうを取り上げて書いたほうがいいね。そして、最後に考えたことをまとめて書いてらどうか。



打ち上げ花火は、およそ400年もの歴史をもった、日本のすばらしい伝統といえます。

80字

100字

※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。どちらようで行を変えないで、続けて書きましょう。

三 今村さんたちは、「④まとめ」の意見を受け、書き出しの文に続く内容を考えました。あとの条件に合致させて書きましょう。

【途中省略】

【リーフレットの表紙】

打ち上げ花火の伝統

打ち上げ花火は、いつから人々の目を楽しませてきたのでしょうか。また、花火師たちはどのような種類の打ち上げ花火を作り出してきたのでしょうか。

そして、打ち上げ花火の伝統を守るために花火師たちはどのような苦勞をしているのでしょうか。

6年1組 ・今村 ・西村
・町田 ・山下

※リーフレットとは、一枚の紙を折りたたんだものなどに、文章と絵や写真、図表、グラフなどを使って伝えたい内容を分かりやすく説明したものです。

2 今村さんの学級では、グループごとに日本の伝統と文化について調べ、リーフレットにまとめています。今村さんたちのグループでは、「打ち上げ花火の伝統」について分擔して調べ、次の「下書きの一部」を書きました。そして、グループで「編集会議」を開いたときに書かれた意見をもとに書き直しています。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

解説 B区分(主として「活用」に関する問題) 2 - 三

目的や意図に応じて、複数の内容を関連付けながら自分の考えを具体的に書く問題です。

この問題では、打ち上げ花火の特徴に関する複数の内容を関連づけながら、それに対する自分の考えを具体的に書く力が求められます。

文章を引用したり、図やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くことに課題がみられます。

- (3) 実験3では、おもりの重さを40gにもどし、ふりこの長さを変えて10往復する時間を調べ、下の表にまとめました。

実験3の結果

| | | | | |
|--------------|----|----|----|-----|
| ふりこの長さ (cm) | 25 | 50 | 75 | 100 |
| 10往復する時間 (秒) | 10 | 14 | 17 | 20 |

この結果から、次のことがわかります。

ふりこの長さを2倍に変えたとき、10往復する時間は2倍になっていないので、ふりこの長さと10往復する時間は比例していません。

「ふりこの長さを2倍に変えたとき、10往復する時間は2倍になっていない」ことを、上の表の中の数と言葉を使って書きましょう。

解説 B区分(主として「活用」に関する問題) 2 - (3)

表から数値を適切に取り出して、二つの数量の関係が比例の関係ではないことを数と言葉を用いて書く問題です。

この問題では、数量の関係を具体的な数値を事実として示し、この二つの数量が比例しているかどうかを説明する力が求められます。

表を用いて、伴って変わる二つの数量の関係を考察し、根拠を明確に説明することに課題がみられます。

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(1から5は、段落の番号を表します。)

1 昔さんは、「犬も歩けば棒にあたる」、「花より団子」、「良薬は口に苦し」といったことわざを聞いたことがありますか。これらは「いろはかるた」に取り上げられているものです。「いろはかるた」は、

いろはにほへと ちりぬるを わかよたれそ つねならむ うゐのおくやま けふこえて あさきゆめみし ゑひもせす
の四十七字に「京」の字を加えた四十八字を最初の字にしたことわざからできています。四十八のことわざを字札にしたものを読み、ことわざの意味などを表した絵札を取りります。

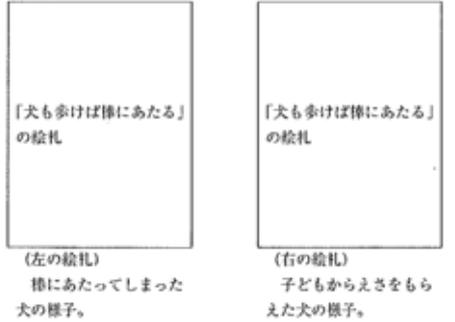
2 江戸時代から遊び道具の一つとして親しまれてきた「いろはかるた」ですが、一つ一つのことわざに着目してみると生活に役立つ知恵が多く含まれていることが分かります。近代の有名な作家である芥川龍之介も、私たちの生活に欠くことのできない思想は、「いろはかるた」に全て盛り込まれているのかもしれないといった内容を書き残しています。子どもにとっては少々難しいことわざでも、遊びを通して楽しみながら身近に感じたり学んだりすることができるのが「いろはかるた」のよさの一つだと言えます。

3 「いろはかるた」と一口に言っても、種類ではありません。例えば、同じ「い」で始まることわざでも、「犬も歩けば棒にあたる」、「石の上にも三年」、「一を聞いて十を知る」、「急がば回れ」など、時代や地域によって様々なものを取り上げられています。また、「犬も歩けば棒にあたる」は、生活や社会の状況によって異なる解釈が生まれています。それは、絵札を比較するとよく分かります。

4 ところで、昔さんはかるた遊びをしたことがありますか。お正月に家族で楽しむものの一つとして思い浮かべる人もいないでしょうか。「いろはかるた」で遊んだ経験はなくても、郷土をテーマにしたかるたや、漫画などのキャラクターが登場するかるたで遊んだことはありませんか。現在は、「郷土かるた」や「環境かるた」、「四字熟語かるた」など様々なものがあります。テーマや内容は違っても、絵札と字札という形式で作られていることは共通しています。

5 現代のかるたが「いろはかるた」から受け継いだのは、形式だけではありません。例えば「郷土かるた」で遊ぶことを通して、私たちは生まれ故郷に伝わる昔からの風習や地域の特徴などを学んだり、「環境かるた」で遊びながら環境への取り組みを知ったりすることができます。そう考えると、「かるた」は形式とともに、その内容も含めて私たちの生活と密接に関わりながら生き続けていると言えます。

【図】「犬も歩けば棒にあたる」の絵札



三 この文章を読んで「かるた」について分かったことの中から、興味をもったことについてさらに調べることにしました。次のア、イ、ウについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア この文章を読んで、「かるた」について分かったことを一つ書きなさい。
イ アについて、さらに調べたいことを一つ書きなさい。

ウ イを調べる手段を、次の①から③までの中から一つ選び(どの「調べる手段」を選んでかまいません)、その手段を用いてどのようにして情報を集めるのか)を二十字以上、五十字以内で書きなさい。
なお、③「その他」を選んだ場合は、あなたの考える調べる手段を解答用紙の()に書きなさい。

〔調べる手段〕

- ① 学校図書館 ② インターネット ③ その他

三 次のアからカの文では、()の中のものから1から4までのうち、どれが最も適切ですか。それぞれ一つずつ選びなさい。

- ア 今年の夏の暑さには(1 平行 2 平衡 3 並行 4 閉口)した。
イ 友達に将来の(1 抱負 2 初心 3 意志 4 感想)を話す。
ウ あこがれの仕事に(1 付く 2 突く 3 就く 4 着く)。
エ 直前になって、二の足を(1 踏む 2 舞う 3 進む 4 歌う)。
オ (1 なんだか 2 ささやかに 3 ひそやかに 4 にわか)に強い雨が降り出し、人々はあわてた。
カ 彼には、いくら言っても「(1 猿 2 馬 3 牛 4 猫)の耳に念仏」で効果がない。

解説 B区分(主として「活用」に関する問題) 1 - 三

自分で課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることができるかどうかをみる問題です。

この問題では、文章を読み、分かったことからさらに新たな課題を見出していく力や情報収集する各方法について特徴を理解し、自分の課題にあったものを選択し、活用する力が求められます。選んだ方法について、どのように情報収集を行うかを具体的に書く力に課題がみられます。

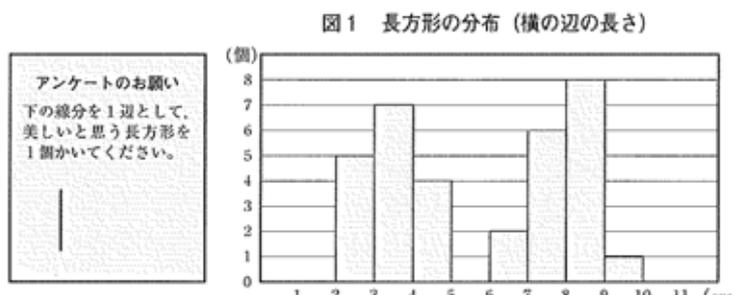
A区分(主として「知識」に関する問題) 8 - 三 ア・イ

文脈に即して、漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題です。

日頃聞きなれていない、または聞くことが少なくなった語句についても、用いられている漢字や前後の語句から類推し、意味を正しく認識できる力に課題がみられます。

- 5 麻衣さんと小春さんは、学級の生徒がどのような長方形を美しいと思うかを調べることにしました。そこで、下のような、長さ5cmの線分がかかれたアンケート用紙を学級の生徒33人に配り、それを1辺とする長方形をかいてもらいました。

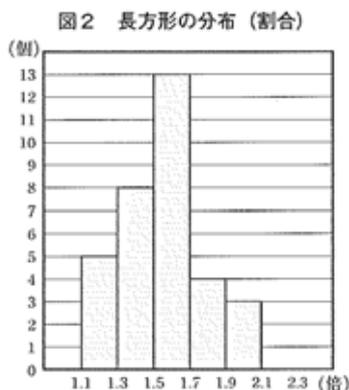
図1は、集計した結果をまとめたものです。このヒストグラムから、例えば、横の辺の長さが2cm以上3cm未満である長方形が5個かかれていたことがわかります。



- (2) 麻衣さんは、小春さんの長方形を横にしてみると、自分の長方形と同じ形に見えると思いました。

そこで、集計したすべての長方形について、長い辺の長さが短い辺の長さの何倍かを求めて、図2のヒストグラムにまとめ直しました。

このようにまとめ直すと、学級の生徒が美しいと思う長方形について、新たにどのようなことがわかりますか。わかることを、図2のヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。



解説 B区分(主として「活用」に関する問題) 5 - (2)

資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明できるかどうかをみる問題です。

この問題では、図2のヒストグラムから新たに分かる特徴に着目し、数学的に説明する力が求められます。そのためには、前提にあたる部分(ヒストグラムの特徴)と、それによって説明される結論にあたる部分(特徴から分かること)を明確にして表現することが必要になります。